

たんぼぼ作業所を訪問して

北町3 岡田憲造

◎所長さんのお話しによると、知的発達に障害を持った人達を、人として・人らしく、社会参加をさせるためには、ただ保護してやればよいと言う事では絶対にだめで、その人は、だんだん自立出来なくなり、どうし様もない廃人になってしまう。アグリパーク・エナでは、その人の、障害の軽い・重い・年の若い・多いに関係なく、その人に合った労働活動をしてもらい、多少でも賃金を払い、幅広い社会体験を、ぼつぼつさせながら、いずれ家に帰っても、自分の事は自分でやって行ける様にするために、一生懸命に、その人の身になって、とことん付き合いきれる関係を作って、援助に取り組んでいる。恵那障害者厚生施設たんぼぼの所長さんから毎日の実例を引き出しながら、聞かせて下さった約50分位の説明の概要である。所長さんの障害者になり切って援助を行っておられる、毎日のご苦勞の様子が、ひしひしと感じとられ、こんな立派な人材がわが県内に在住されている事を誇りに思い、そして一人でも多くの障害を持つ人の社会参加を祈りながらの、感銘の施設訪問であった。

今回は上記の6名の方々から寄稿頂きました、有難うございました。今後の社協活動の参考にさせていただきます。尚、本年度は、支部事業計画案として『施設訪問』を5月と10月に、『活動の盛んな地区との交流・研修』を10月に予定しています。多数参加して下さい

担当者 谷村征二 ☎71-821



【写真・3】
所長さんのお話を聞く



【写真・4】
長島支部との交流会

社協 尾崎支部だより

特集・号外 No.2 平成8年4月
各務原市 社会福祉協議会 尾崎支部

先進社協研修会に参加して

◎2月17日、尾崎社協のボランティア説明会に出席した。今まで勤めていたので、何も出来なかった事もあり、定年を機にどんな小さな事でも、何か始めたいと思っていた時だったので……。その席で今回の施設訪問研修に出て見ませんかと声を掛けられ、周りには知った人もなく、ちょっと迷ったが、何事も前向きにと思い出席する事にした。8時30分那加の図書館前を出発して、アグリパーク恵那に着いたのは10時少し過ぎた頃だったろうか？アグリパークの中の調理室で10名位の人が料理を作っている最中であった。今日は独居老人の方に弁当をサービスする日なのだそうだ。料理の献立のくふうもさる事ながら、お弁当の上に一枚ずつ載せられた手紙に感心した。やっぱり人間は言葉が大切なんだと思った。恵那市の社協の方々との座談会では、その地域、地域の特色があるので、尾崎は尾崎なりの活動を考えなくては、いけないのではないか、と思った。午後は知的障害者施設アメリ、ハウス・エナを訪問、遠山所長の話聞き、所内を案内して頂いた。淡々と、そして愛情に満ちた話の内容、隅々まで行き届いた施設の設計、感動で目頭が熱くなる思いだった。ボランティア、ボランティアと口で何百回唱えても心からの愛情を持って行動を起こさなければ、一步も前には進めないのではないかと思った。今回この研修に参加して、少しは、自分の視野が広がり、自分の中の何かが動いた様な気が します。 南町M.E



【写真・1】 当日、独居高齢者に配布された弁当です

先進社協研修会に参加して Y・H

◎私も障害者を持つ親として一番の心配事は、自分の死後の子供の将来の事です。障害者を持つ多くの親は、子供が自分より早く死んで欲しいと願っているものです。しかしこのアメニティー・エナはそうした悩みを解消してくれる施設でした。ここでは障害者が社会の中で生きていく為、社会参加の手助けをし、人として生きがいのある生涯を送れるようにと、自立心をやしない生活の中で自然な形でリハビリが行われていました。重度の障害者でも洗濯は自分でやります。食事も自分で盛り付けています。ここでの入所者の生活を見、聞いていると今までの障害者の育て方・接し方が間違っていたのではと大いに反省させられるものでした。それと今始めているボランティア活動のあり方についても今一度考える必要性を感じました。又施設面でも所長より、障害者にとって一番良い施設を考えて作ってあると言ってみましたがびっくりする事ばかりでした。私も今までいろんな施設を見て来ましたが、どこの施設でもだいたいは病院の病室的な作りです。これは介護側から見れば合理的・機能的かもしれませんが、はたして入所者からはどうかという疑問を持ちました。今各務原では福祉の里が建設中ですが、エナ・アメニティーハウスのようなすばらしいものにして欲しいと思いました。又午前中アグリパーク恵那では、給食サービスを見学させていただきましたが、近い将来尾崎でも是非実施したいと思いました。今後も先進的な地区との交流を通し、いいところはどんどん取り入れ社協活動に生かして行きたいと思いました。

◎私は9月に退職し、仕事を辞めたら時間に追われる事もなく自分にやりたい事をやろう、あれもこれも習って、ただぼんやりとテレビを見て時間を過ごそうと思っていたが、日が立つと何だか心に穴があいたよう気持ちになっていた。第2の人生を前向きに生きたいと思っていた時、ボランティアの話が有り、研修に参加して喜びを感じました。いつまでも健康であるためには、体も心も健康でなくては、『私はもう年だから』ではなく、さあ第2の人生を人のために少しでも役立てようと言う気持ちがなければ、気持ちの方が、だめになってしまうように思います。現役で仕事をしている時は地域の皆さんの活動を見る事もなく、いましたが、いま自分で見つめ直すと、人と言う字は、一人ではなく互いに支え合っている形のように、目に見えない所で、とれだけ、たくさんの、人達に助けられているのかを悟り、常に感謝の気持ちでいなければと思います。人生80年時代になり、8人に一人は65才以上の高齢者がいる時代になった今日、自分達の地域は、自分達の手で守っていこう、自分で出来る事はないか、やれることが有れば、皆さんと力をあわせてやって見たいものだと思います。また、たんぼぼ作業所を訪問し頭が下がる思いをしました。障害を持つ人達も、世話をする人達も、お互いに、より良い生活を目標に向かつて努力されているのを見て、一つ一つ感動させられる事ばかりでした。長島地区の人達は、自分達の地域は自分達で前向きに3世代で懸命に、温もりのある社会を目指して頑張っている姿が、うかがえました。五体満足な私達は、自分のためでもあり、人のためでもあると思い、働ける事を感謝しながら人生80年時代に挑戦したいと思っています。

南町 K. I

交流研修会・施設見学を終えて

◎3月7日社協尾崎支部より26名を乗せたバスは一路恵那へ、活動の盛んな長島支部の方々と、意見・情報・資料の交換・給食サービス見学と、いろいろ勉強させて頂きました。中でも65才以上の独居老人(希望者)への給食はバランスよく、とても美味しく心のこもった献立に感心しました。悔しいかな今のところ尾崎では実現出来ない現状です。又宅配に消防職員(非番の方)の協力を得ているところが、なかなかのアイデアだと思いました。何故ならば、お年寄りの火の元にも目を向け、話しかけながらのボランティアだからです。給食を頂いているお年寄りの笑顔が目に見えるようです。そんな笑顔が楽しみでボランティアの方々も一層張り切って活躍で切る事と思います。長島地区では定年退職後社協に参加される方(男性)が多いように見受けました。そのような方々が、今までの肩書きを、ちょつぱり利用して、市町村(行政)への橋渡しもスムーズに出来、この様に多くの協力も得られたのだと思いました。また知的障害者厚生施設アメニティーハウス・エナでは、それなりの教育と訓練に基づき、豊かな日々を過ごせるよう、所長さんを始め職員の皆さんが力をあわせての涙ぐましい生活指導を続けていられる様子が何れ大変参考になりました。時間の関係で見学出来ない所もあり残念でしたが、この機に際し少しでも社協のあり方を学ぶ事が出来ればと思っております。

南町 S. Y

◎地域の中で、何かつながりを持って行きたいと思っていた折りに、誘って頂き、参加した感想をしたためます。恵那市の長島支部社協の取組かたを聞く中で自治会・民生委員・ボランティアの方々等のつながりが強く、皆さんで取り組んでおられるのが印象的でした。食事サービスも、食事だけでなく会話を届ける事も忘れてならない大切な事と感じました。また施設訪問では、たんぼぼ作業所の所長さんの話が心に響いてきました。人間が産まれてから死を迎えるまで『自分で生きる』大切さを学びました。そして介護をする側も受ける側も、自立した人間の生活の援助であり、感謝できる姿勢が大切な基本であるように思いました。また働く事は死を迎えるまで人間を成長させてくれる事のようにも思いました。多くを学ぶ事が出来た一日でした。

南6・宮川

【写真・2】



アグリパークの調理室の様子